

今こそやろう減災式

先月の続き、災害の発生後に直ちに活動ができる「**早期対応方法**」はどうすればよいのでしょうか？

早期対応方法とは、災害発生の際に死なない対策ができた上で「**あなたの命が助かった**」次の場面への活動です。それは大きな災害が発生すれば、あなたの



周囲には次々と普段の生活では経験することのない様な、非日常的な事象が多く発生する可能性があります。例えば、あなたの周囲では多くのケガ人や急病人（以下「傷病者」という）の発生が過去の災害の教訓から予測されます。その場に居合わせた人が応急手当を速やかに行えば、傷病者の救命効果が向上し、治療の経過にも良い影響を与えられています。この現状から、救命講習や応急手当の学習会では、公衆の場で見ず知らずの人が倒れたり、ケガをしたりと想定されている場合があります。しかし実際の災害時には、あなたの周囲の誰が傷病者となるのかは、あなたの生活環境によって違います。一日24時間の内、通常は家族や職場の人、関係者と時間を共にする機会が多いと考えれば、あなたの周囲で発生する傷病者は、あなたと繋がりが深い人達である確率が高いのです。特に、あなたの大切な人が傷病者となってしまった場合、早期対応方法を実践できるのは「**あなたしかいない**」のです。「あなたしかいない」という言葉は言い過ぎとも聞こえるかもしれませんが、でもそこまで言わなければ、あなたはあなたの大切な人の命を



最初から、どこの誰か判らない他人に託す「依存的防災活動」へと進んでしまうからです。ケガによる大出血や、更には心肺停止などの対応は「自分には無理だ！」と思うかもしれませんが、確かに治療行為までは不可能です。しかし、医療の専門家に引き継ぐまでに、あなたにはできることが山ほどあるのです。あなたの大切な人が緊急の事態に遭遇しても、適切な応急手当を実施すれば、尊い命が救われたという事例も、過去の災害の中でも数多く報告されているのです。

緊急の事態に遭遇した場合の適切な応急手当は、日頃からの応急手当に関する正しい知識と技術を身に付けておくことが大切です。注意としては、あなた一人だけができるのではなく、あなたの周囲の人にも応急手当を身につけてもらっておけば、



お互いに助け合うことが可能になるのです。

また、地震などの大災害時には、応急手当の前に「**助け出す行為**」が必要となる場合も考えられます。

『**家具等の転倒により身体が挟まれて動けない。**』

『**家屋の倒壊で家人が取り残されている。**』『**近所で火の手が上がった場合延焼を防ぐ為に初期消火を急ぐ。**』



この様な事態に、あなたはひとりで対応してはいけません。恥ずかしがらず、遠慮せずに大きな声で助けを呼ぶ。可能な限り大きな声で協力してくれる人を探しましょう。

さて、この場面では、日頃から近所の人や周囲の人とコミュニケーションを取れているかどうかで、緊急事態における対応速度は大きく違ってきます。

『**うちのお父さんが大変なんです！助けて～！**』と叫んだ時に、日頃から少しでも付き合いがあれば、その叫び声だけで、それを聞いた人は『**〇〇さんのお父さんが大変らしいよ。助けに行こう！**』と、他の人も連れだって救助に来る可能性が高くなります。ところが、日頃の付き合いがなければ、いくら叫んだとしても『**どちら様ですか？**』『**この人、本当は怪しいんじゃないの？**』と確認する作業で時間は長引くばかりです。一分一秒を争う命の灯火。少しでも早く対応ができれば助かる確率は大幅に向上します。そう考えれば、日頃の挨拶や付き合いも大切な救助活動の一環なのです。



あなたが、手当等の知識や技術を学ぶことで日常生活も一変します。何故か？それは守るべきものを『**定義**』するようになるからです。また、日々当たり前のように使っている便利な物も、凶器になることや、あるいは別の使い方をすれば、日常の生活備品が人の命を守るものになり、応急処置に使えること等を知ることができます。

最近、命を救うことのできる器具「**AED**」を街の中で多く見かけます。これは尊い命を守りたい意識が街中に広まっているからです。AEDを使用すれば命が救える！でも、目の前に命を救える器具があるのにあなたが使えなければ何の意味も無い。また、あなただけでもダメです。ひとりでも多くの方が手伝ってくれることが良いのです。でも、どうすれば増やせるのか？それは、守るべき対象を定め、どうすれば良いのかを考える。あなただけでは大切な人を守れません。

その為に「**あなたの輪**」を広げることが大切。その「**輪**」が広がるほど、つながりあい「**網**」になります。その「**網**」は強い結束となり、緊急の事態が発生しても、即、共に助け合える人が周りにいることになります。災害発生後の活動だけに目を向けず、**災害発生までに「共に助け合い守り合う仲間をつくる**」これが何よりの**早期対応方法**であり、今回の減災式です。

【報告】3月29日の防災訓練は、晴天にも恵まれ、約300人参加。ありがとうございました。参加記念品の配布は後日掲示します。

